

XIX. 身体的拘束最小化チーム

身体的拘束最小化チームは、患者さん一人ひとりの尊厳と安全を両立させることを目的に、2025年2月に発足した。

日々のケアの在り方を見直し、より自由で安心できる環境づくりに取り組んでいる。

近年、医療・介護の現場では「身体拘束は最後の手段」という考え方が社会的にも強く求められている。当チームはその流れを受け、職員研修、事例検討、院内ラウンド等を通じて、拘束に頼らないケアの実践を推進している。

XIX-1 チーム構成員

医師 3名 看護師 4名 作業療法士 1名 薬剤師 1名

XIX-2 活動内容

当院としての基本的な考え方と判断基準を明確化するために、身体的拘束最小化のための指針を策定し、全職員が共通理解をもってケアにあたることのできる体制を整えた。

また、現場での実践状況を継続的に把握し、課題を早期に共有するため、多職種合同の院内ラウンドを定期的実施した。ラウンドでは、拘束の必要性や代替手段の検討、環境調整の提案などを行い、現場の改善につなげている。

さらに、身体拘束の判断がより適切に行われるよう、従来の運用を見直し、身体拘束の基準を再整理した。これにより、拘束に依存しないケアの選択肢が広がり、現場での判断の質向上につながっている。

加えて、入院に関わるすべての教職員が共通の知識と視点を持てるよう、今年度は教職員向け研修を2回開催し、身体拘束のリスク、代替手段、倫理的視点などについて理解を深めた。

これらの取り組みを通じて、当チームは身体的拘束の最小化に向けた組織全体の意識と実践の質の向上を図ることができた。

XIX-3 2025年4月－2026年3月 身体拘束率

	2025.4	2025.5	2025.6	2025.7	2025.8	2025.9	2025.10	2025.11	2025.12	2026.1	2026.2	2026.3
身体抑制を実施した患者延べ数(名)	950	1,003	620	866	988	1,053	1,075	1,091	1,162	766	758	948
入院患者延べ数(名)	22,311	22,372	21,956	23,078	23,584	22,439	23,352	22,834	22,716	22,743	21,650	20,888
身体抑制率	4.3%	4.5%	2.8%	3.8%	4.2%	4.7%	4.6%	4.8%	5.1%	3.4%	3.5%	4.5%

